

## 二〇二〇年度 入学試験問題 国 語

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

コミュニケーションの現場において、人がちゃんと僕の話聴いてくれる状態というのは僕が「たいへん役に立つこと」を話しているという確証が①先方にあるからではありません。僕の言うことが実に論理的かつ比喩もカラフルで、言いたいことがすらすらと全部わかるからではありません。そうではなくて、聴いた話の a シンギや当否についてとつさには判断しかねたので、②答えを自分の身体に訊ねた場合だけです。

この原理を応用すると、大学の授業でも、教室内の全員が僕の話を理解するという b キセキ的な瞬間が起きることがあります。それは例えば教師が「後ろの方、聞こえますか？」と問いかけたときです。なんと、驚くべきことに、この問いに「聞こえません」と回答する学生たちがいるのです。不思議でしょ？ だって、聞こえないんですよ！

よく考えてみてください。このとき学生たちは実に複雑な操作をしているんです。まず教壇にいる僕から c ダンペン的な音声が聞こえてくる。「うし……き……ますか」くらいしか聞こえない。僕が何を言っているのかわからない。「牛の肉を食べて、ワインでもきこしめしますか」と言っているのかも知れない。でも、授業の冒頭に教師が教壇からそんな変なこと言うわけない。だから、同じ「うし……き……ますか」という音で構成可能なセンテンスをいくつか思い浮かべて、その中で一番「ありそうな文」を選び出す。聴き取り不能だった音を「たぶん、あれだな」と想像して補填する。その仮説に基づいて、「声が後ろの方まで届いていないので、(マイクを使うとかの)しかるべき補正手段を d 採って下さい」という遂行的なメッセージを「聞こえません」という一センテンスに e 託して発する。

すごいですね。これだけ複雑な操作を一瞬のうちに行っているんです。でも、それが可能なのは、すべて僕の言っていることが「よくわからない」からなんです。「よくわからない」がゆえに、「わかる」ために、状況判断したり、候補文をスキャンしたり、虫食いのなメッセージを補って完成させている。

エドガー・アラン・ポーの『黄金虫』という小説を読んだことがありますか？ なければ、ぜひ今から本屋に行つて文庫本を買うか、図書館に行つて借りて来るかしてください。読んで損はありません。『黄金虫』は虫食いだらけの暗号文を解読して海賊キッド船長の財宝を見つけない話なんですけれど、暗号解読のために主人公がしているのはまさに「聞こえません」と同じ操作なんです。まず、海岸で拾ったぼろぼろの羊皮紙に不思議な模様がついていた。これは「よくわからない」情報入力です。そこで状況から判断して、「たぶんこういうことを書いたものだろう」と推理した。そして、その虫食いのなメッセージの「穴」を埋めていった。

③やっていることは構造的には同じことなんです。

④それが人間の知性が最も活発に発動しているときのあり方なんです。

「後ろの方聞こえますか？」という僕の問いに「聞こえません」と答えた学生たちもこのときに「自分の身体に訊いている」。わかりますよね。「今、揺れた？」とか「寒気がするでしょ？」とかと同じタイプの出来事なんです。聴覚記憶は音が消えてしまった後もかなりの時間、身体の中に残っています。人間は「もう聞こえない音がまだ聞こえる」し、「まだ聞こえない音がもう聞こえる」というような能力を備えています。音楽を聴くというのは、まさにそういう経験ですからね。僕たちがメロディとかリズムとかグループとかいうものについて語れるのは、「もう聞こえなくなった音」や「まだ聞こえない音」がいまここで聞こえるからです。

「後ろの方聞こえますか？」と僕が言ったときに、学生たちは自分自身の聴覚記憶に問いかけているんです。「私には何が聞こえたのか？」

(内田樹「身体に訊く―言葉を伝えるとはどういうことか」『転換期を生きるきみたちへ―中高生に伝えておきたいせつななこと』晶文社、二〇一六 による。一部改変したところがある。)

(注) グループⅡ音楽用語。演奏時において演奏者同士のかけあいなどによって生じる高揚感。

問一 傍線部 a から e のカタカナは漢字を、漢字は読み仮名をそれぞれ書きなさい。

問二 傍線部①「先方」が表わす意味を書きなさい。

問三 傍線部②の「自分の身体に訊ねた」とは、人の話を聴いている場合を例にして述べているが、「身体」をより具体的に表わした五字以内の表現を文中から抜き出して書きなさい。

問四 傍線部③の「やっていることは構造的には同じこと」とは、三段落目の「後ろの方、聞こえますか？」と言ったときに、「聞こえませんか」と学生が回答する例についての説明と、五段落目の小説『黄金虫』の例を対象にして述べたものである。傍線部③の直前「まず、海岸で……埋めていった。」に対応する三段落目の内容はどこからどこまでか。最初と最後の五字(句読点を

含まない)を抜き出しなさい。

問五 傍線部④の「人間の知性が最も活発に発動しているとき」に行っている具体的な様子を一文で述べている箇所を探し、その一文の末尾の五文字(句点を含まない)を書きなさい。

問題二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

達成したい目的——遠くに行きたい、食べ物を手に入れたい、安全に暮らしたい、光や暖かさがほしい、見えないものが見えるようになる——は、限りのないものです。人は古くから、自分たちの欲求をできるだけ満たそうと、工夫を凝らしてきました。

古代にさかのぼれば、石を使って耕したり、刈り取りをしたり、その石を使いやすいように加工したりしました。やがて、石よりも使いやすく**ジョウブ**で加工しやすい青銅や鉄を生み出します。鉄は、農機具としても、安全を守り領地を広げるための戦いをする武器としても幅広く活用され、現在では工業社会を支える大きな力となっています。目的を達成するために効率を上げ、大規模な産業へと発展させ、産業の形態や生活のスタイルを大きく変える転機となったのが産業革命でした。こうしてさまざまな道具にわたしたちの望む仕事をさせて、より多くのものを手に入れること、これが技術の発展であり、便利さの実現です。

では、技術の発展による便利さや快適さがわたしたちにもたらすものは、すべてが歓迎すべきことだったのでしょうか。

「えっ? どうして? 便利っていいことじゃないの? 悪いことなんてあるの?」と思うかもしれませんね。

物理学者でもあり、科学者の社会的責任などについて活発に発言している池内了さんは、「便利さとは、①自分自身の中にある能力を失うこと」と述べています。

ナイフと電動えんぴつ削りの関係を思い出すと、池内氏の言葉の意味がわかるのではないのでしょうか。鉛筆を穴に入れるだけできれいに削れる電動えんぴつ削りはたしかに早くて便利ですが、使い慣れてしまうと、ナイフを使いこなして、鉛筆の先を細く削りだしていく自分の技術を磨く必要はなくなるからです。

道具やエネルギーに多くを**cイゾン**していると、これらが使えない状況になったときにとっても困ることは、経験した人はもちろん、そうでない人も容易に想像できるでしょう。

自動はたしかに便利です。ただし、どの部分を「自動化」し、どの部分を、わたしたちの内的能力を高めることで処理していくか、わたしたち自身が考えて決めていく必要があります。便利さをどんどん取り入れていくことは、最初は「よい面」がよく見え、あたかも「よい面」しかないように思えます。しかし、それはほんの一面に過ぎません。わたしたちは、「便利」や「自動」を受け入れるときには、それによって現れるかもしれない「悪い面」も予測できなければならぬと思います。便利を受け入れる「実力」を身につける必要があるのです。

今まで述べてきたように、人間ははるか昔からいろいろな道具を使って生活を便利にしてきました。自分たちの手足、あるいは目、耳、鼻などを延長し、機能をパワーアップさせてきたわけです。

当然、その結果として、動ける範囲や見えるもの、できることが変わってきます。全自動洗濯機の話も、もう一度思い出してください。最初にそれが来たときにものすごく感動したのは、面倒な洗濯作業が(干すところをのぞけば)すべて自動で行われ、その分、今まで持つことのできなかった自由時間が手に入ったからです。つまり、自分を取り巻く世界が変わったわけです。道具は、科学技術は、わたしたちの身の回りの世界を変える力を持っています。メガネを普段かけている人は、はじめてメガネをかけたときに、なんと世の中がくつきりと見えるのだらうと感動した経験があると思います。あれと同じです。

ドイツの動物行動学者(出身はエストニア)のヤーコブ・フォン・ユクスキュルという人は、あらゆる生物はその種に特有の「環境世界」に住んでいると唱えました。②物理的な環境は同じでも、その環境の中のどの情報を使うかは、生物の種類によって大きく異なります。人間が見える光の波長は可視光の範囲に限られますが、モンシロチョウなどは紫外線も感知することができますし、ガラガラヘビやマムシは赤外線を感知する器官を持っています。音でも同じことで、コウモリやイルカが人間には聞こえない超音波(超高周波)を使って外界の障害物を認識したり餌を発見したりするのは有名です。③逆にゾウは、人間に聞こえない超低周波を聞くことができますと言われています。動物の体温を敏感に感じて取り付くノミなどの寄生虫もいますし、明暗だけしか感じることもできない魚もいます。このように、動物たちが見たり感じたりしている世界は、さまざまなのです。これをユクスキュルは、それぞれの動物にとつての「環境世界」と表現したわけです。

科学技術は、人間にとつての環境世界を大きく変えてきました。人間単独では見えない世界、できない世界を、見える世界、可能な世界に変えてきたわけです。

もともと人間は、好奇心が非常にdオウセイな生き物です。今まで感じることでできなかった環境世界を感知することができますようになれば、それだけでも大きな満足です。さらに、行けないところに行けるようになる、持ち上げられなかった物が持ち上げられるようになる、作れなかった物も作れるようになる、もうこうなってくると、好奇心というよりも欲望と言った方がいいかもしれません、それを実現することを、科学技術は可能にしてくれたのです。

当然これは、人間にとつてはおもしろいしありがたいことですから、どんどん先へと進みます。科学技術は、ある意味、夢をかなえてくれる道具だったのです。科学技術の歴史は、人間がその夢をかなえ、欲望を満たすための道具を開発してきた歴史だと言ってもいいでしょう。

さて、問題は、科学技術の発展が累積的だということですが、自転車ができて速く遠くへ移動できるようになったら、次は、より速く、より大量に移動できるように改良したり、新しい道具を開発したりします。今、到達しているところが、次への出発点になるのですね。だから、全自動洗濯機がはじめて届いて感動していても、しばらく経つとそれが標準の状態になってしまつて、さらなる便利さを求めていくわけです。

この累積性というのは、科学技術に限らず人間の文化現象すべてに共通の特徴です。文学作品だって美術作品だって、今までには表現されていないテーマや技法を求めて、作家たちは苦勞しています。過去が蓄積されていて、そこから出発しているわけです。科学技術も累積的に発展してきたからこそ、これだけ膨大な知識を集めることができ、強大な道具を作ることができるようになったわけです。

ところが、④これが両刃の剣でした。単独の科学的知見や技術的成果であれば、その影響力は人間の想像力の範囲内です。しかし、どんどん累積的に発展してくると、あまりにも規模が大きくなり、強力になりすぎて、人間の想像力の限界を超えてしまいます。そうすると、予期せぬ副作用が生じたりして、事故につながったり、あるいはアスベストのように気づかないうちに人間の健康を蝕んでいってしまう場合があります。現在の科学技術には、このような側面があります。

そうになると、今までは夢をかなえ、希望を実現してくれる存在だった科学技術が、生活や健康を脅かすものとしてクローズアップされてきます。公害問題などがあつたとはいえ、一九六〇年代、七〇年代までは、まだ科学技術はバラ色でした。それがじわじわと副作用が気になりだし、地球環境問題が国際的に取り上げられるようになると、一気にネガティブなイメージが噴出します。これには、科学技術が実際にネガティブに作用することが増えてきたという面もたしかにあります。が、メリットの方に対する感動がインフレを起こして、ありがたみが薄れてしまったという部分もあるように思います。

(佐倉統・古田ゆかり他『おはようからおやすみまでの科学』筑摩書房、二〇〇六 による。一部改変したところがある。)

問一 傍線部 a から e のカタカナは漢字を、漢字は読み仮名をそれぞれ書きなさい。

問二 傍線部①の「自分自身の中にある能力」を言い換えた五字以内の表現を文中から抜き出して書きなさい。

問三 傍線部②「物理的な環境は同じでも……大きく異なります」と同じ事柄を端的に一文で述べている箇所最初の五字を書きなさい。

問四 傍線部②の「どの情報を使うか」の「情報」の具体例として、文中で取り上げているものを三つ、それぞれ五字以内で書きなさい。

問五 傍線部③「逆に」とは、何と何が逆なのか説明しなさい。

問六 傍線部④「これ」が指す内容を本文中の表現を用いて十五字以上二十字以内で書きなさい。

問七 次の中から問題文の内容と一致するものを全て選んで、記号で答えなさい。

- ア 科学技術の進歩や発展は長所だけでなく短所もある。
- イ 「便利さ」をどんどん取り入れて、「自動」に負けない技術を高める必要がある。
- ウ 「環境世界」とは、動物にはそれぞれ物理的に異なる環境が存在するという考え方を示したものである。
- エ 科学技術の発展が人間にとつての環境世界を大きく変えた。
- オ 科学技術の発展が累積的であるため、人間の想像力の限界を超えた問題が生じている。
- カ 「累積的」とは、常に出発点にもどり最初から積み上げていくということ、これによって人間は進歩してきた。

解答用紙

国語

受験番号

氏名

問題一

問一

a

b

的

c

的

d

e

して

問二

Blank box for question 2

問三

Blank box for question 3

問四

最初

Blank box for question 4

最後

Blank box for question 4

問五

Blank box for question 5

問題二

問一

a

らし

b

c

d

e

かす

問二

Blank box for question 2

問三

Blank box for question 3

問四

Blank box for question 4

Blank box for question 4

Blank box for question 4

問五

Blank box for question 5

問六

Blank box for question 6

問七

Blank box for question 7